

## 2018 年度 先進情報処理メカトロニクスクラスタ M1 発表者向け資料（後期）

### 目標

1. 学会形式での発表と質疑応答ができるようになること。
2. 発表とそれに対する質疑応答を通して、先進情報処理メカトロニクスに関する意見交換ができるようになること。

### 発表内容と時間

- 卒業研究の内容を発表する。
- 発表時間は 10 分。質疑応答時間は最大 10 分とする。

### 発表準備

- 発表のチェック：指導教員に申し出て、発表 1 週間前までにチェックを受けておくこと。
- チェックポイントは次の通りとする。
  1. 発表時間が十分に活用されているか。（超過してはいけない。極端に短すぎてもいけない）
  2. 声の大きさ、スピードは適切であるか。
  3. 関連研究紹介について著者やタイトルだけでなく内容が示されているか。
  4. 研究背景、目的が明示されているか。
  5. 最後の「まとめ」について、最初に提示した研究背景と目的に対応した結論が導かれているか。
  6. 見やすく、理解しやすいスライドを提示できたか。
  7. 関連研究の論文について十分に理解ができているか。（質疑応答に対応できるか。）
  8. 発表練習を繰り返し行っているか。（教員のチェックが初めての発表練習ではいけない）

### 質疑応答

- 大ゼミ時間内の質疑応答への対応 大ゼミ時間内の質疑応答は、自分の考えを論理的にまとめ言葉を選ぶ訓練である。相手の質問の意味を適切に捉えるよう努力し、適切な回答を組み立てる。回答するために十分な知識を持ち合わせていない場合は、後日の回答とする。
- 回答書の作成（大ゼミ時間後） 大ゼミ時間内に質問があったものを含めて全員分の質問は、大ゼミ終了後に司会を担当した教員から渡される。渡された質問を類似しているものごとに分類・分析した上で、発表 1 週間後までに回答を作成すること。回答は世話役教員から Web ページ掲載などの手段により質問者へフィードバックされる。

### 補足事項

1. 発表については、大ゼミ時間内にクラスタ教員から講評を行うが、成績評価の対象とはしない。
2. レジメ配布は行わないこと。（手元に資料がなくても理解できる発表とすること。）
3. 発表者はプロジェクタ操作用のリモコンなどをあらかじめ教務係より借り、質問票を聴講者数準備しておくこと。
4. 質問票は回答を作成した後、すみやかに世話役教員へ返却すること。

## M1 発表者の回答書の作成について

回答書に必要な項目

1. 発表タイトル
2. 発表者名
3. 発表日
4. 質問とそれに対する回答を箇条書きにしたもの

質問の取り扱い

ひとつひとつの質問ごとに回答を作る必要はなく、質問などをカテゴリーに分けて、回答を作るのが適切である。

回答の作成

学会発表時の質疑応答を想定して、簡潔かつ正確な言葉を選ぶことを期待している。もちろん、簡単な数式や図が必要であれば、数式や図を示しても良い。

回答書の作成と提出

PDF ファイルとして出力し、世話役教員宛にメールで提出する。

なお回答書のファイル名は下記のように学生番号を含んで作成すること。

学生番号が 1 番の場合： 2017z-60180001.pdf